

排泄ケアからはじめた業務改革

——すべては、質の高い看護サービスのため——



滝童内浩子 看護部長

看護ケア全体の質の向上は、“点”ではなく、“面”での底上げが重要となる。そのための方策として、玉川病院では、排泄ケアという“点”から、業務改善を“面”として拡げていった。そのねらいと取り組みについて、滝童内浩子看護部長に話を聞いた。

羞恥心を伴うケアだからこそ 患者の人権を尊重したい

——排泄ケアの充実に取り組んだきっかけを教えてください。

2007年4月、私が当院の看護部長として着任したときに、看護のビジョンを明確にしてケアを行いたいと思っていました。なかでも、最も大切と考えているのは、口腔ケアと排泄ケアです。とくに排泄ケアは患者さんの羞恥心が強いケアであり、生活の意欲や自立にも関連します。漏れを防ぐために、何枚もオムツを重ね、さらにオムツカバーまでするというケアの方法は、拷問にも近く尊厳を損ねると考えました。また、患者さんの生活のリズムを整えてあげることも重要な看護のひとつです。夜間のオムツ交換で覚醒させられた患者さんは質の高い睡眠をとることができなくなります。そこで、排泄ケアを見直すことによって継続した睡眠を確保することが大切だと考えました。もう1つは褥瘡です。オムツを何枚も重ねることによるズレの力で褥瘡が発生しやすいということはわかっていましたので、この状況を変えたいと思っていました。

排泄ケアをないがしろにして質の高いケアはないと考えています。また、排泄ケアを充実させることで、患者さんの生活は再構築されるのです。

——最初に取り組んだことは何ですか？

排泄ケアは重要な課題ですが、そこだけを改善しようとしても、全体的なケアの質の向上にはつながりません。そこで、私が看護部長として着任後まず行ったことは、各看護科長に所属看護単位のSWOT分析*をしてもらい、問題点や課題を浮き彫りにすることでした。これは、看護師自らが現在実施している看護に対して問題意識をもってほしいと思ったからです。自らが問題と思わないかぎり、改革の道はないと思っていましたので、また、私が着任後半年は、院内をまめにラウンドし、現状把握に努めました。そして看護師全員が同じ方向を向いて取り組むために看護理念と看護目標を科長会で作成させ、4年間で達成する第1期の目標をつくりました。排泄ケアはそのなかの大きな柱の1つです。

——TENA導入のきっかけは何ですか？

TENAのことは以前から知っていました。入院患者さんの人権を尊重し、一枚使用なので、快適性が保てること、ずれもなく褥瘡予防につながるのではないかと思います。また、夜間のオムツ交換の回数も少ないので、患者さんの夜間の睡眠を確保できると考えました。

しかし、私のほうから押しつけてはいけませんので、まずは褥瘡対策委員会の活動に、月1回、外部から皮膚・排泄ケア認定看護師を招き、褥瘡と排泄ケアに取り組みました。実際に認定看護師が行うケ

アを見てもらいながらTENAを試行しました。

排泄ケアをきっかけに 院内の業務改善に着手

——TENAへの切り替えはスムーズでしたか？

TENAを使用した多くの看護師から、“確かによい製品だけど、正しい当て方が習得できないうちは使いにくい”という声が聞かれましたが、褥瘡対策委員会の看護科長がじっくりと取り組んでくれました。よさがわかってきたところで出てきた課題は、1枚当たりのコストが高いということでした。

それも私自身は予想していましたので、次の課題として、病院全体の効率化を提案しました。それまで入院着なども院内で洗濯したり、清拭などに使用するおしぼりも院内でつくっていましたが、それらをすべて外部に委託し、入院セットとしてTENAを入れたアメニティセットを導入しました。排泄ケアのコストはオムツ代だけでなく、人件費やごみ処理代、予防などを考えることが大切だと思っていましたので、排泄ケアのトータルコストは適切だと思いました。排泄ケアから連動し、なおかつ現場の声から出てきたものであれば、継続性があると考えたのです。こうして、働きやすく、ケアの質を高めるための業務改革、“こうなったら

* SWOT分析：Strength(強み)、Weakness(弱み)、Opportunity(機会)、Threat(脅威)の頭文字をとったもの。組織のビジョン立案の際に利用する現状分析手法の1つ

玉川病院の排泄ケアへの取り組み

アメニティセット導入によるオムツの在庫整理

同院では、SPD (supply processing and distribution) を導入し、在庫の管理と補充を外部業者に委託。看護師がケアに専念できる環境を整えている。アメニティセットをつくったことで、病棟内在庫も整理され、スペースも有効活用できるようになった。



e-ラーニングの導入

自己学習支援のため、e-ラーニングシステムを導入。機能的排泄障害についての学習を深めたり、統一のとれた標準化をはかるため、同院の排泄ケアの看護基準の予習・復習に利用している。



東京コンチネンスケア研究部会や院内の排泄ケア研修会を開催

「ケアをしたい看護師の思いと、多忙な業務のなかで実践できないジレンマをどのように考えているか」「TENAの正しい当て方が維持できているか」の2つをテーマに、2012年2月に院内の看護研究発表会でアンケート結果を発表。

また、実際にオムツを当てて排泄を体験した人としていない人でグループワークをしたり、排泄ケアに役立つグッズの使い方など、さまざまな研修会を開催し、ともに学び励まし合っている。



研修会の様子



東京コンチネンスケア研究部会を玉川病院講堂にて開催

いいな」という“夢”をかたちにする取り組みを進めていきました。

当院では、ポートフォリオを使った可視化にも力を入れていますので、排泄ケアの善し悪しが褥瘡の回復に大きく影響することが目に見えてわかり、ケアの効果が実感しやすいと思います。

勉強会や看護研究発表会でも排泄ケアへの取り組みを報告

——TENAのメリットについてはどのように感じていますか？

TENAは、製品そのもののよさと、システムとしてのよさがあると考えています。製品としては、肌触りがよく、吸収力が高い、べたつきがなくて患者さんに不快感を与えないというのが大きな魅力です。また、患者さんの排泄量に応じたオムツ選択ができます。排泄の時間間隔、排泄量などの排泄パターンに応じた使い分けができますし、オムツを開けなくても、交換表示ラインで排泄の状況を知ることができます。

その分、当て方には技術が必要になりますが、当院では、4月の新規採用者の集合研修で指導します。また、病棟の褥瘡対策委員をはじめ、病棟のチーム全体で繰り返し習得できるまで練習をしています。

当院には回復期リハビリテーション病棟がありますが、たとえ院内であっても病室を出れば多くの人の目があります。1枚使いで腰まわりがすっきりしていることも、患者さんの尊厳を考えると、非常に重要なことです。

もう1つはシステムとしてのよさです。入院セットに組み込んだことで、ご家族にオムツを持参してもらう必要がなくなりました。物品の補充システムを導入し、委託業者に定数を補充してもらうことで、病院の倉庫の在庫が整理できたのも、大

きな業務改善です。

——現在の排泄ケアへの取り組みについて教えてください。

TENA導入後、院内の褥瘡発生率も減少し、看護師のケアに対する意識、質が向上しました。看護部の業務委員会が作成した排泄ケアのアルゴリズムや看護基準に沿ってケアを行っており、院内の看護研究発表会でも積極的に排泄ケアの取り組みが報告されています。また、院内だけでなく、地域との連携をはかり在宅ケアが必要な患者さんの生活もサポートしています。

当院の看護理念は、人間の尊厳を守ることが基本です。TENAのコンセプトも同様であり、当院のスタッフがそれを理解したうえで、TENAを使用していることを非常にうれしく思っています。

財団法人日産厚生会玉川病院

〒158-0095

東京都世田谷区瀬田4-8-1

TEL 03-3700-1151

<http://www.tamagawa-hosp.jp/>

